

原子力災害における 放射線被ばくを考える(金沢)

原子力災害の最新の知見から事故時の市民の不安を理解し、
医療現場における患者の被ばく不安にどう対応するかを学ぶ。

開催日:平成23年12月17日(土)

時間:13時00分～17時00分(開場:12時30分より)

場所:石川県地場産業振興センター 第12研修室
石川県金沢市鞍月2丁目1番地



—プログラム—

基調講演

「福島原子力災害における現地状況と中・長期支援活動」

徳島大学アイトープ総合センター

佐瀬 卓也

教育講演

(1)「原発事故から学ぶ放射線防護—技師に必要な知識とは—」

セントメディカル・アソシエイツLLC

国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター 広藤 喜章

(2)「医療における放射線防護の考え方」

金沢大学医薬保健研究域

松原 孝祐

(3)「放射線防護でのリスクコミュニケーション」

浜松医科大学医学部附属病院

竹井 泰孝

総合討論

座長:藤田保健衛生大学

教授 鈴木 昇一

金沢大学医薬保健研究域 保健学系

教授 越田 吉郎

主催:日本放射線技術学会中部部会, 北陸アンギオ研究会

共催:石川県放射線技師会, 日本保健物理学会, 日本放射線安全管理学会

平成 23 年 10 月吉日

原子力災害における放射線被ばくを考える(金沢)

開催日：平成 23 年 12 月 17 日(土)

時 間：13 時 00 分 ～ 17 時 00 分 (開場：12 時 30 分より)

場 所：石川県地場産業振興センター 第 12 研修室
石川県金沢市鞍月 2 丁目 1 番地

定 員：100 名(参加費：無料)

主 催：日本放射線技術学会中部部会，北陸アンギオ研究会

共 催：石川県放射線技師会，日本保健物理学会，日本放射線安全管理学会

趣 旨：東日本大震災に伴う福島第一原発事故以降、土壌、水道水、食物の放射性物質による汚染が報道され、一般市民の間に放射線被ばくに対する不安が広がっている。医療現場では患者の被ばくに対する不安や質問に答える機会が増えつつある。しかしながら、我々診療放射線技師の間でも被ばくに対する誤解と混乱が生じており、被ばくの種類、形態および単位などの基礎的な事項を再確認する必要がある。

事故以降、関連学会が提供している情報を整理し、原子力災害の最新の知見から事故時の一般市民の不安を理解する。また、医療現場における患者の不安にどう対応するか学ぶ。

—プログラム—

基調講演

座長：金沢大学附属病院 能登 公也

「福島原子力災害における現地状況と中・長期支援活動」

徳島大学アイソトープ総合センター 佐瀬 卓也

教育講演

座長：金沢大学附属病院 飯田 泰治

(1) 「原発事故から学ぶ放射線防護—技師に必要な知識とは—」

セントメディカル・アソシエイツ LLC

国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター 広藤 喜章

(2) 「医療における放射線防護の考え方」

金沢大学医薬保健研究域 松原 孝祐

(3) 「放射線防護でのリスクコミュニケーション」

浜松医科大学医学部附属病院 竹井 泰孝

総合討論

座長：藤田保健衛生大学

教授 鈴木 昇一

金沢大学医薬保健研究域 保健学系 教授 越田 吉郎